

令和6年度第1回奥州市総合計画審議会

議 事 録

奥州市政策企画部政策企画課

令和6年度第1回奥州市総合計画審議会 議事録

1 日時

令和6年7月4日（木）13時30分から15時10分まで

2 場所

奥州市役所本庁 7階 委員会室

3 議題

(1) 報告事項

未来羅針盤プロジェクトの進捗状況について

(2) 説明事項

第2期奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

4 出席委員及び欠席委員

(1) 出席委員 17 名

（1号委員）遠藤清逸、千葉憲雄、吉田あや子、高橋一幸

（2号委員）小岩敬一、長野耕定、若生和江、菅原正堯、松平アイ子、田中誠、
藤原芙美江

（3号委員）吉村武洋、山本健、清水健司、千田志保

（4号委員）及川麻梨絵

(2) 欠席委員 5 名

（2号委員）吉田真弓、後藤元夫、千田博文、神山重久、早川浩子

－奥州市民憲章唱和－

▶ 二階堂政策企画部長

それでは定刻となりましたので、会議を始めさせていただきます。

本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。私は本日の司会をいたします政策企画部長の二階堂純でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。

会議に先立ちまして、市民憲章の唱和を行います。市民憲章は会議資料の表紙に掲載しております。恐縮でございますが、皆様ご起立をお願いいたします。

私が前文をお読みしますので、一つの後から、ご唱和いただければというふうに思います。

－奥州市民憲章唱和－

ありがとうございました。ご着席ください。

－委嘱状交付－

▶ 二階堂政策企画部長

続きまして、委嘱状の交付を行います。

今回は、この度交代されました委員の皆様への交付となります。

それでは、お手元の委員名簿に従いまして、2号委員の方より、市長が委員の皆様の席を回って交付いたします。

私の方でお名前をお呼びしますので、自席でご起立の上、受領いただければと思います。

－委嘱状交付－

ありがとうございました。ご着席をお願いします。

なお、本日の出席委員につきましては、本日配付の座席表をもって紹介にかえさせていただきますのでご了承願います。

1 開会

これより、令和6年度第1回奥州市総合計画審議会を開会いたします。

なお、本日は、委員22名中17名が出席しております。

半数以上が出席しておりますことから、奥州市総合計画審議会条例第4条第2項の規定により、会議が成立しておりますことをご報告いたします。

はじめに、奥州市長からご挨拶申し上げます。

2 挨拶

▶ 奥州市長

皆さんこんにちは。本日は本当にお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます

います。

また皆様方には、普段よりまちづくりの舞台でいろいろ活躍していただきまして、本当にありがとうございます。感謝いたします。

さて、当市の総合計画につきましては、令和4年度から令和8年度までを計画期間とする後期基本計画が進められており、本計画に掲げている「地域の個性がひかり輝く自治と協働のまち 奥州市」を実現するため、市民参画や官民連携を通じた協働に取り組んでおります。また、住み続けたい魅力のあるまちを目指して、まちづくり、仕事づくり、ひとづくりを三位一体で推進することとしています。

この審議会は、総合計画の策定と推進に係る重要事項、つまり、当市のまちづくりにおける根幹部分を皆様方にご審議いただくものであり、ご意見を頂戴しながら、取組の改善を図り、よりよいまちづくりにつなげていく場としております。

本日は、「未来羅針盤プロジェクトの進捗状況について」ご報告させていただくとともに、「第2期奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について」ご説明させていただきます。

今後の市政運営について、専門的、客観的なご立場、市民の目線からのご意見を頂戴いただければと考えております。

限られた時間の中でとなりますが、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

▶ 二階堂政策企画部長

続きまして、奥州市総合計画審議会の会長でございます遠藤清逸様からご挨拶をお願いしたいと思います。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

本日はお忙しいところ、ご出席いただきましてありがとうございます。開催に当たりまして一言ご挨拶を申し上げます。

はじめに、先ほど当審議会の2号委員並びに3号委員の委嘱がありましたが、審議会委員を代表し、私自身、考えを申し上げたいというふうに思いますし、これから専門的な視点を含めて、幅広い観点から、今後のご活躍をご祈念申し上げたいというふうに思います。

時の流れは早いもので、季節も本格的な夏に突入しました。一方、年間を通じた異常気象、いや、これらは通常の気象と思えるほど、この日本にとどまらず、世界規模であらゆる分野に影響を与えていることはご承知のとおりでございます。

特にも、梅雨末期を迎える当市においては、広大な面積を有することから、災害対応は並大抵ではないということは察するところでございます。市民の安全・安心の確保はもとより、全産業にまたがるリスクの洗い出しを含め、取り残しのないよう、万全の対応をお願いするところでございます。

本日の会議は、市長からも申し上げましたように、未来羅針盤プロジェクト推進状況の確認と、もう一つは、奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂についてご説明いただきながら、皆さんのご意見を賜りたいというふうに思っております。よろしくお願いを申し上げたいというふうに思います。

最後になりますが、私自身、振興協議会活動を通じながら、常日頃、以下の点を強く感じております。

県、自治体、振興会等にとって、重さであるとか、大きさは違えども、抱えている課題はそうは変わらないというふうに考えております。

私達の土地、常盤地区で言えば、限られた財政資源などの条件下で、安全・安心で住みよいまち常盤の発展強化に向けたスクラップアンドビルドを果敢に挑戦することになるとして活動をしております。

要は、目標とすべき色付けを大きく定め、その過程としての決算をどう描くかということを考えながら、職員一同、業務に当たっているところでございます。

そういった観点から、この総合政策審議会での議論は、我々の活動にも大きな参考になると確信するところでございますし、常日頃期待を申し上げているところでございます。

本日も、実のある会議になることをお願い申し上げ、ご挨拶といたします。よろしくお願いします。

3 報告

▶ 二階堂政策企画部長

それでは、次第3の報告に入らせていただきますが、奥州市総合計画審議会条例の規定によりまして、会長が会議の議長となる旨定められておりますことから、3の報告と4の説明につきましては、遠藤会長に議事進行をお願いいたします。

なお、本日の会議の終了時間を、15時を目安に進めていただければと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、遠藤会長よろしくお願いいたします。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

それでは、次第に基づきながら進めさせていただきます。

次第3の報告に入らせていただきます。それでは、3の報告事項「未来羅針盤プロジェクトの推進状況について」、事務局の説明を求めます。

▶ 菊地未来羅針盤課長

未来羅針盤課の菊地と申します。

私の方から、資料3の未来羅針盤プロジェクトの進捗状況について説明させていただきます。着座にて説明させていただきます。

まず最初にですけれども、未来羅針盤プロジェクトとは何だと思われる方もいらっしゃると思いますので、羅針盤プロジェクトのコンセプトを、説明した 2 分程度の動画を最初にご覧いただきたいなと思います。

それでよろしくお願いします。

－動画視聴－

ただいまご覧いただきましたように、未来羅針盤図といますのは、人口減少社会において、持続可能なまちづくりを進めるための中長期的なまちの開発デザインです。

この羅針盤図は、8つのプロジェクトから構成されておりまして、これからそれぞれのプロジェクトの進捗状況についてポイントを絞って説明させていただきます。

資料 3 をご覧ください。まず地域医療奥州市モデルプロジェクトです。

そもそも地域医療奥州市モデルですけれども、これは水沢病院、まごころ病院などの 5 つの市立医療施設、胆沢病院と江刺病院の 2 つの県立病院、そして市内の民間医療施設、これら三者がそれぞれの強みを生かしながら、役割分担を明確にして、奥州市全域をカバーするネットワーク型による地域医療体制を構築しようとするものです。

市は、昨年 6 月にこのモデルを公表し、そのコンセプトに基づき、本年 1 月に新医療センター整備基本構想を策定しました。

現在は、新たに建設する新医療センターの診療科構成ですとか、センターに備える様々な機能について具体的に検討してございます。これについて、秋頃には基本計画として完成させる予定です。

加えまして、衣川地区で実証的に進めております遠隔診療車については、今後他地域への横展開を目指しております。

また、妊産婦支援としては、昨年度から水沢病院での宿泊ケアを再開し、また今年の 6 月からは市内ホテルを利用した産後ケア事業が始まっております。

続いて、未来型公共交通プロジェクトですけれども、こちらは本年 3 月に策定した、奥州市地域公共交通計画に基づきまして、まずは前沢地域において、AI デマンドシステムを活用した地区内交通の準備を進めております。本年度内の運行を予定してございます。

また、IC カード等を活用したキャッシュレス決済への対応、デジタルサイネージについても、順次進めていくこととしてございます。

次のページをお開きください。

小さな拠点づくり事業です。まず衣川ですけれども、こちらは今年度で 3 年目となります。これまで見守り電球サービスや、民生委員活動におけるタブレットの活用、遠隔診療車の運行など生活支援の取組を中心に進めてきました。今年で最終年度となりますので、年度末には、これまでの成果の検証を行い、併せて他地域での導入など、横展開に向けた検討も進めてまいります。

伊手地区につきましては、今年 3 月にモデル地区指定し、5 月には地元組織と実施協定を締結してございます。

こちらは空き校舎となった旧伊手小学校校舎及び校庭を活用して、1 階は地区センター、2 階は地域団体に貸与して、地域資源を生かした取組を進めていきたいと考えております。今年度は設計、来年度は工事を行って令和 8 年度からのオープンを予定してございます。

続いて、奥州湖周辺エリアプロジェクトですけれども、こちらも今年 3 月に、奥州湖周辺エリア活用整備構想を策定し、現在その実現に向けて関係団体、事業者等との協議を進めております。

今年度の具体的取組としては、奥州湖交流館改修工事の設計、河川空間オープン化に向けた準備、みちのくダム湖サミット in 奥州の開催、モンベルと連携した情報発信等を行っていきます。

次のページをお開きください。

水沢市街地エリアプロジェクトについては、先日、メイプルリニューアルに関するアセットマネジメントプランの策定について、Keeyls（キールズ）株式会社様との連携協定を締結したところでありますけれども、今後 Keeyls と連携しながら、メイプルリニューアルに向けた取組を加速していきます。また、水沢公園のリニューアルをはじめ、駅前通りやその周辺の賑わい創出についても取組を進めていきたいと思っております。

江刺市街地エリアプロジェクトですけれども、皆様既にご存知のとおり、現在民間アパート等の建設が盛んに行われております。

また、フロンティアパークⅡにおいても、誘致企業の工場建設が急ピッチで行われておりますので、時期を失することなく、新工場で働く雇用者の増加に対応した良好な居住環境づくりを進めていく必要があります。

今年度は、開発基本構想を策定することとしており、現在、公募型プロポーザル方式により事業者を募集しているところでございます。8 月には事業者を決定し、早速構想策定の準備を始めていくこととしております。

次のページをお開きください。

水沢江刺駅周辺エリアプロジェクトについては、まさに奥州市の玄関口であり、周辺に市有地も多くあることから、民間の事業者との意見交換を継続しつつ、具体的な取組について検討を進めてまいります。また、駅構内にある南岩手交流プラザについては、今年度中にリニューアルすることとしておりますので、奥州市の情報拠点としてふさわしいしつらえにしていまいります。

最後、前沢市街地エリアプロジェクトですけれども、公共交通の方でも触れましたとおり、AI デマンド型の交通システムを今年度中に導入予定です。この地域はコンパクトで非常に住みやすい地域となっておりますので、今後、街路の整備等を含めて、さら

に住みよいまちづくりに向けた取組を進めてまいります。

以上簡単ですけれども、未来羅針盤プロジェクトの進捗状況について報告させていただきます。

以上です。

▶ 遠藤会長（１号委員：水沢地域会議）

はい、ただいま事務局の方から報告がございました。

この未来羅針盤図も、ときを過ぎるごとにちょこちょこと、現実味が現れてきているような感じを受けているところであります。

それでは皆さんの方からご質問等をお受けいたします。なお発言の際には、お手元のマイクをご利用いただきたいというふうに思いますし、議事録作成のため、最初にお名前をお願い申し上げたいというふうに思います。

それでは、ご質問、ご意見、ご要望を一括してお受けいたします。いかがでしょうか。

はいどうぞ。

▶ 小岩委員（２号委員：奥州市観光物産協会）

２点ほど確認させていただきたいと思います。

まず１ページ目の未来型公共交通の件で、デジタルサイネージの設置ということで記載がありますが、その設置しての活用方法を、どのようなことを考えているのか教えていただきたいと思います。

それから、あともう１点目は確認なんですけど、３ページ目、水沢市街地エリア、この下の方の丸のところで、メイプル AM プランとあります。ただ、これおそらくアセットマネジメントのことかなと思いますが、右側の方にはきちっとアセットマネジメントと書いてありますが、その辺、もし違うのであれば、教えていただきたいと思います。以上２点よろしく願いいたします。

▶ 遠藤会長（１号委員：水沢地域会議）

それでは事務局の方からお答えいただきます。

▶ 阿部政策企画課長（公共交通対策室長）

はい、公共交通対策室の阿部と申します。

私の方から１点目の公共交通の関係でのご質問にお答えしたいと思います。

デジタルサイネージの活用方法ということでございますけれども、今年度設置しようとしているこの使用施設がこの項にありますとおり、駅バスターミナルといったところになりますが、こういったところは乗り継ぎの拠点という位置づけになってございますので、現在市の方で既に導入しておりますバス予報というですね、いわゆるバスの経路、あるいはバスが今どこにあるかといった、そういった部分を表示できるものもございますし、それからあと、時刻表、そういったものをまずは表示させていただいて、乗り継ぎの皆さんに分かりやすくというところからスタートさせていきたいというふ

うに思っております。

ただ、デジタルのディスプレイですので、いろんな情報は表示できるようにはなるとは思います。そういった隙間の部分の活用については、今後検討は必要ですが、まずはそういった乗り継ぎのためのデジタルサイネージだということを主眼に設置をさせていただければと思っております。

以上です。

▶ 菊地未来羅針盤課長

2点目ですが、全く委員ご指摘のとおりでございました。同じアセットマネジメントの意味でございます。今後気をつけたいと思います。ありがとうございました。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

はい、よろしいですね。

その他こちらの方で、はい、どうぞ。

▶ 吉村委員（3号委員：岩手大学）

吉村と申します。

資料の作り方という言い方が良いのか分からないんですけども、要望としてなんですけど、いろんなことを今年度やられて、これからもやられていくということは分かるんですけど、これによってどういう方向を達成されようとしているのかというのが、現状の資料ではあまり分からなくて、結局この進捗をすることがどういう未来につながっているのかということがもう少し明確になって、中期・長期的なことであるので、もちろんイメージであるということは分かるんですけど、どういうまちづくりとかどういう地域にしたいんだという思いがもっと出てくると、進捗も分かりやすいなというふうに思いますので、ぜひご検討いただけるとありがたいです。

以上です。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

はい、ありがとうございます。

大きな未来羅針盤図がここにあって、その枝葉が今進んでいるんだというふうに思います。今のことをご理解いただいて、付け加えることがございましたら、事務局の方でお願いします。

▶ 菊地未来羅針盤課長

はい、大変申し訳ありませんでした。

まさにご指摘のとおりかなと思います。内部用の資料ということも兼ねておりましたので、なかなか外の市民の方々に分かりづらかったと思います。今後もう少し分かりやすい形で、我々が目指しているところとか、具体的にこれから進めていくに当たって、例えば具体的な数字であったり、そういったところも含めて、皆様にお示しをして、事業の進捗等を説明していきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

▶ 遠藤会長（１号委員：水沢地域会議）

よろしいでしょうか。今後ご期待いただきたいと思います。

その他、はいどうぞ。

▶ 若生委員（２号委員：奥州めぐみネット）

奥州めぐみネットの若生です。

小さな拠点づくりについてお伺いしたいと思います。

今はまず、その拠点となる衣川とか伊手での事業がスタートして、進んでいるところという状況だと思うんですけども、やはりそれ以外の地域の人たちからは、その横展開と言っても、いろんな条件も各地域違う中で、どういう部分は他にも共有していけそうかというのが、少し見える状態にしてもらいながら、この事業を進めていってもらうと、我が地域にも希望があるかなと思って、興味を持ってもらえと思うんですけども、拠点となっている地域と、そこではない中山間地域との差が今出てきているように思うので、やはりその効果が見られた部分、ここは共通の課題であって、この部分は他の地域でも活用していきたいと思いますという話を、折に触れてしていってもらったりすると良いのかなと思っています。

▶ 遠藤会長（１号委員：水沢地域会議）

必要なことだと思います。事務局の方で付け加えてください。

▶ 菊地未来羅針盤課長

小さな拠点につきましては、我々としては市内 30 地区全てにそういったような形を広げていきたいと思っております。

ただ本当に広い奥州市でありますので、なかなか一概にこれが全部横に広がるんだろうということでもないんだろうなというふうに思っております、本当にいろいろなモデルとなり得るところをさらに増やしていきつつ、横展開するに当たっても、少し変えていかなきゃいけないところもあるんでしょうし、そこら辺をしっかりと考えて、横に進めていきたいと思っております。

ただそれにしても、どういうふうに進んでいるかが分からないと、なかなかうちでもやりたいとかいう話に多分ならないと思いますので、これから衣川は 3 年目ということで、一定の成果というか、こんな形でしたよということは出せると思いますので、そこら辺しっかり出していきつつ、伊手での取組についても出していきつつ、こんな感じで進んでいますよという中で、ではうちの地域ではどうなんだろうということを提案していただけるような形で進めていきたいなというふうに思っております。

▶ 若生委員（２号委員：奥州めぐみネット）

ありがとうございます。多分各地域共通のというのは、高齢化してきて見守りが大変とか、そういうどこの地域にも起きていることで、それに対してみんな訪ねてという確認ではなく、見守り電球が非常に効果的だったとか、そういうふうなことは横展開がし

やすいことであると思いますし、それぞれの地域で、人材も、何をやりたいと思っているかも、持っている魅力もそれぞれ違うので、展開をしていくところは、結構丁寧に、人も育ちながらいかないと駄目だなと思うので、そこを全部一緒に見ないで、その横展開できる部分とそうじゃない部分というのを何か少し分けて考えていくとありがたいのかなと思います。

以上です。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

いかがですか、事務局の方で。

▶ 菊地未来羅針盤課長

はい、ありがとうございました。

我々としては、協働まちづくり部の方でも、地区の方にも様々足しげく通っておりますので、そこは一緒になって、その地区独自の課題とか多分たくさんあるんだろうと思いますので、それに合った形で、丁寧に説明しながら一緒にやっていけるところを探っていきたいなというふうに思っております。

ありがとうございました。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

よろしいでしょうか。

この事業何回か説明されてはいるんですけども、やはり30地区に横展開をしていくということでもありますので、30地区それぞれのカラーを活かした提案能力というのも、当然ながら求められてくるんだろうというふうに思います。

いずれは一つのものを作るってことは、共同作業になってくるだろうというふうに思いますので、本日はご指摘の委員の皆さんにも、一つそんな形で今後考え、同じレベルで考えていただければいいのかなというふうに私自身気が付きましたので、申し添えたいと思います。

その他、はい、どうぞ。

▶ 吉田委員（1号委員：前沢地域会議）

吉田と申します。

二つお聞きしたいんですが、地域医療奥州市モデルというので、これには載っていないんですが、以前産科医を招聘するということが載ってあったと思うんですけども、到達点には至っていないというのは分かるんですが、その進捗状況をどの程度まで呼び込めるような体制になっているのかというのを聞きたいですし、もう一つは、奥州市街地エリアの今後の進め方の確認ということで、未利用の市有地等の利活用ということをここに挙げているんですが、それはどの辺の地区の市有地を、どのようにしたいという案があるのでしょうか。それとも、それはこちらで何か考えなければならないことなのか、その2点を教えていただきたいです。

▶ 遠藤会長（１号委員：水沢地域会議）

それでは事務局お願いします。

▶ 高野健康こども部長

健康こども部の高野でございます。

産科の件を私の方からお答えさせていただきます。

産婦人科医の誘致につきましては、まさに市内の産科医さん、それから県内外の専門家の先生方、医療関係者の方々からいろいろご意見を伺ってまいりました。

その中でやはり今、産科医療を成立させるためには、医師 １ 人では駄目だという状況が明確になっておりまして、そういった意味では複数の産科医と複数の小児科医、それから麻酔科医、助産師等のスタッフをかなりの数で揃えないと、なかなか成立するのは難しいということが分かってまいりましたので、あくまでも現段階では周辺の北上でありますとか、一関の周産期母子医療センター、ここをしっかりと維持していただきながら、今奥州市内では妊産婦さんが不安に感じておられるその距離の不安を埋めるとか、あるいは産後の子育て支援、これをしっかり形づくっていく、そういったところに努力していこうというふうに思っております。

以上です。

▶ 二階堂政策企画部長

２点目の未利用地の活用については、私の方から説明いたします。

全体的に、この未利用地の活用ということに触れたプロジェクトは、もう少しありまして、例えば小さな拠点でも今、学校跡地活用とか、そういうところも出てきておりますし、それから顕著なのが、江刺市街地、江刺庁舎の周りに市有地がある程度まとまっておりますので、現在有効に使っていると言い難いところでございますので、そこをいかに活用して、いま盛んと、工業団地の従業員が増えるという公算でございますので、その居住エリアとしても、それから住環境の良好化という部分にも活用しようというところでございます。

それから吉田さん、前沢でいらっしゃいますから、前沢のことも興味あってのご質問かなと思いますけれども、ご存知のとおり、学校跡地もございまして、なかなか全体として学校跡地の利用も進んでないんですけども、先んじて、前沢地域では、その学校跡地用地を物流会社が活用するという例もございました。

非常に交通の利便の高い場所でもありますから、そういった用地、いかに民間活用、それから、有効な形で活用すると、そういった趣旨で、未利用地の活用というふうな表現をさせていただいているところでございます。

▶ 吉田委員（１号委員：前沢地域会議）

分かりました。

▶ 遠藤会長（１号委員：水沢地域会議）

はい、それでは次の方おられますか。

はい、どうぞ。

▶ 松平委員（２号委員：奥州市地域婦人団体協議会）

奥州市地域婦人団体協議会の松平と申します。

伊手小学校を改築して地域拠点づくりをやるというふうなお話でございますけども、何も伊手小学校ばかりじゃなくて、奥州市には各地区の総合支所もすごく空きスペースがあると思うんですが、私達みたいな団体は、どこにも拠点を置くことができなくて、いろんな資料等は代々の会長が持っていたり、事務局が持っていたり、いろんなことをやっているんですね。

それで、他所のあるところにお伺いしたときに、ここは私達のボランティアの部屋だから、いつどういうふうに使ってもいいと、ただし、受付に行ったらちゃんと鍵を借りて、何時から何時まで使えますよというふうな手続はやっているんですけども、奥州市にはそういうふうな団体の使っている拠点というものがほとんどないんですね。

市の老人クラブさんは、社会福祉協議会に拠点を置いて、いろんなものをそこで相談したりなんかやっているのは見かけますけども、他の団体いろんなところにはないのが現実でないかなと思うんです。

たくさんのボランティアで成り立っている奥州市でもあると思うので、その辺のところを、何も大改修しなくても、地区センターはいろいろ使っているのかな、総合支所の一部をパーティションで、間仕切りかなんかやって、それでも自分たちの居場所だというふうなものがあると、行動しやすいように思うんですが、いかがでしょうか。

▶ 遠藤会長（１号委員：水沢地域会議）

はい、ありがとうございます。

各団体で空きスペースを活用できないだろうかというような質問です。事務局の方でお願いします。

▶ 羽藤財務部長

はい。財務部で、庁舎管理の方で答えたいと思いますが、まず財産の貸付の部分のお話かと思いますが、いろいろ今現状のままでは、利用上の制約というのも多少あるかと思いますが、その辺個別具体の部分については、財産運用課の方にご相談いただければというふうに思います。

よろしく申し上げます。

▶ 遠藤会長（１号委員：水沢地域会議）

いかがでしょうか。ぜひとも積極的にお問い合わせいただければというふうに思います。

その他ございませんでしょうか。はい、どうぞ。

▶ 佐藤委員（４号委員：公募）

公募の佐藤と申します。

メイプル及び駅前通りの件なんですけれども、賑わいの創出ということを考えておられると思うんですが、それを創出するのは非常に難しいことだと思います。

結局、今までいくらか賑わいになっていてくれたお年寄りが、メイプルが閉じたことで、駅通りにいなくなったということがありますので、やっぱり一過性のイベント、土日だけのイベントなら若い人は集まりますけども、毎日日常的に、平日の昼間、賑わいを創出するということになれば、今いる高齢者の力を借りてという、その高齢者は若者のお荷物ではなくて、やっぱり 65 歳から 10 年 20 年 30 年、元気に暮らしていける世代ですので、若い人たちが、生きてくためとか、きちんと暮らしていくための下支えは、高齢者の力を借りて、そういうので都市づくり、5 年、10 年先と、1 年、3 年先のようなそういう考え方で、段階的に持っていけないでしょうか。

▶ 遠藤会長（1 号委員：水沢地域会議）

はい、ありがとうございます。事務局の方から、お願いします。

▶ 佐々木商工観光部長

はい、商工観光部佐々木でございます。いつもありがとうございます。

メイプルの件なんですけれども、先ほど観光協会の方からもご質問ありましたように、アセットマネジメントということで、メイプル自体の資産価値を高めるとか、利用を向上させていくというようなところのプランを、3 か月かけて、6 月から 9 月ぐらいまでかけて、専門家も入れて作っているところです。

おっしゃっていただいたように、やはり一過性のイベントで、わっと人が集まるということだけでは、やはり中心市街地の活性化には結びつかないと言いますか、やはり日常的な賑わいをつくるということにはなかなかいかないと思いますので、そういった日常的なメイプルの活用で、まずは人流を作ると、人の流れを作るところを主に、有効な活用策を現在検討しておりましたので、また追って、進捗状況をお知らせできと思いますし、高齢者の件も了解いたしましたので、その中で検討させてください。

▶ 遠藤会長（1 号委員：水沢地域会議）

よろしいでしょうか。その他ございますか。

時間の制限もございますので、この項については、打ち切りをしたいと思います。

多くの皆さんの方から多くのご質問いただきました。最後に市長の方から、気に留めていただいた件がございましたら、補足説明いただければと思います。よろしくお願いします。

▶ 倉成市長

はい、いろいろご意見ありがとうございます。

急遽、遠藤会長から何か喋れと言われたので、私はこの広い奥州市を救うのは、実は小さな拠点づくりではないかなというふうに思っています。コンパクトシティとかそ

ういう考え方もあるんですが、これだけ歴史とかいろんな力のあるまちが、これから長く生き延びていくには、令和の自力更生じゃないですけど、自分たちで自分たちの拠点を作るということが、非常に重要になってくるだろうなというふうに思っています。

それで、そのためには、やはり三位一体で、今日挨拶でも言いましたけど、人づくりとまちづくりとなりわいづくり、これは同時にやらないといけなくて、特に若い人たちのなりわいができないと、拠点を作ってもすぐ終わってしまいます。

ですから、そういう視点で今小さな拠点づくりを進めようと思っておりますし、当然拠点が孤立しては駄目なわけで、新しい公共交通も作らないといけないと思っています。

それは、公共交通は、やはり今までの公共交通とは全然考え方を変えて、共助の公共交通、つまり、今国交省が一生懸命やっていますけども、ライドシェアって言うお互いに誰かが近くの人が乗っけていってくれるという、そういう仕組みをしっかり作って、それで自分たちの周り、足はしっかり拠点に、拠点から拠点に動けるような形にするというのは重要だろうなと思っています。

基幹路線は当然のことながら、JRであっても、バスの基幹路線については、やはり今までどおりの公共交通の考え方が必要かもしれませんが、その周りを補う、今地区内交通でやっているような延長線のアプローチが必要になってくるだろうなと思っています。

それから、やはり有償ボランティアという考え方ですかね。小さな拠点でしっかり社会貢献をした分の対価、報償をいただくというような仕組みがやっぱり必要になってくるだろうなと思います。そういう意味からしても、なりわいづくりはとても大事なだろうと。それも交流人口を増やす、ただそこにいる人たちが集まるという話ではなくて、やはり周りの人間をいかに引っ張ってこれるかという考え方が、これからは重要になってくると思います。

そういう意味では、ここには出なかったんですけど、奥州湖のプロジェクト、あれも結局、奥州湖周りだけではなくて、江刺の種山までこれを全部通せるような、そういう絵をモンベルに作ってもらっていますので、そういうなりわいづくりも含めて今後進めていきたいなと思っていますので、またそれについてもいろいろご意見いただければと思います。

ありがとうございます。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

ありがとうございました。

それでは報告事項の「未来羅針盤プロジェクトの進捗状況について」、これをもって終わりたいというふうに思います。

5 説明

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

続きまして、4の説明事項「第2期奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について」、事務局の方からご説明を求めます。

▶ 阿部政策企画課長

政策企画課の阿部と申します。

私の方から説明をさせていただきたいと思います。では、着座にて説明をさせていただきます。

それでは資料は、資料4から資料6までを使って説明をしたいと思います。なお説明につきましては、主な改訂箇所をこちらに絞って説明をさせていただきたいと思いますので、あらかじめご了承お願いいたします。

はじめに、資料4をお開きいただきたいと思います。

1の改訂に係る経過、趣旨でございます。こちらにつきましては、今年2月に開催いたしました総合計画審議会の際も説明しているところではございますけれども、新しい委員さんもおいでということで、確認の意味を含めて説明をさせていただきたいと思います。

経過等をかいつまんで申し上げますと、今回の総合戦略改訂につきましては、令和4年12月に国がデジタル田園都市国家構想総合戦略、こちらを策定したことをきっかけといたしまして、全国の都道府県、あるいは市町村において地方版の総合戦略を改訂する必要が生じたものでございます。

改訂に当たりましては、国のデジタル田園都市国家構想総合戦略の趣旨を勘案し、市のDX、デジタルトランスフォーメーション全体方針を反映させるとともに、人口減少対策として取り組む、市が目指すまちの開発デザインである未来羅針盤図、こちらを踏まえた改訂とするということになります。

次に、2の改訂の主なポイントですけれども、国のデジ田国家構想総合戦略に即した内容にするとともに、国庫補助金でございますデジタル田園都市国家構想交付金、こちらの活用を見込む事業を総合戦略の中に位置づけましたほか、市のDX推進の方向性や取組を関連づけて、未来羅針盤図、そしてそのプロジェクトを位置づけたということでございます。

続いて、改訂後の計画構成案、それから改訂案ですけれども、順番前後しますけれども、先に、5のスケジュールについて説明をさせていただきたいと思います。

本日以降のスケジュールということでございますけれども、今後、市議会へ改訂案を説明した後に、パブリックコメントの実施を予定しております。パブリックコメントにつきましては、7月17日から8月5日までを予定してございます。

こちらのパブリックコメントで寄せられた意見をもとに必要な修正等を行った後に、

最終的には来月下旬、8月下旬に、改めて総合計画審議会を開催させていただいて、修正内容をお諮りした上で、8月末をめどに成案の公表としたいというふうに考えております。

以上がスケジュールについての説明となります。

それでは戻っていただきまして、改訂案の説明をいたします。

資料については、資料4の裏面、それから資料5及び資料6を使って説明させていただきます。資料4の裏面につきましては、改訂後の計画構成案といたしまして、簡単に言いますと、目次の箇所を、変更箇所を、抜き出して変更しているところを太字下線で表示してございます。

資料5は改訂案の本文となります。

ただこちらですと、改訂前との比較が分かりづらいということで、資料6の新旧対照表、こちらと見比べながら説明をさせていただきたいと思っております。

それでは、新旧対照表につきましては18分の2ページをお開きいただきたいと思いますし、資料5、改訂案の本文については2ページとなります。

「1 はじめに」の部分になります。

こちら「第2期奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略における改訂の考え方」という項目を新たに追記いたしました。内容といたしましては、冒頭説明したように、国のデジタル田園都市国家構想総合戦略、こちらの策定をきっかけとして市のDX全体方針及び未来羅針盤図を踏まえた改訂を行った旨の記載となります。

次に、新旧対照表は18分の3ページをお開きください。

資料5については、改訂案の本文では、8ページ及び9ページとなります。

改訂前にも新たな視点ということで、Society 5.0の実現に向けた技術の活用を掲げていたところですが、今回の改訂案ではこの項目に、DXの推進といたしまして、奥州市のDX全体方針に掲げる地域社会DXの推進、行政DXの推進及びデジタル社会の基盤づくり、こちらの説明を追記いたしました。

また、その後ろ、18分の4ページをお開きいただきたいと思いますけれども、今説明しました地域社会のDXの推進、行政DXの推進及びデジタル社会の基盤づくりの部分について、図示をする形で、分かりやすい説明としたというものでございます。

次に、18分の同じく4ページの下の方になります。

ここから18分の10ページまでは、総合戦略に掲げます4つの基本目標にぶら下がる基本的施策や各施策に関しまして、DX全体方針に掲げる具体的な取組をそれぞれ関連づけた上で追記する見直しを行っております。

具体的には、18分の6ページをお開きいただきたいと思いますけれども、「基本目標1 安定した雇用と新しい産業の創出」、こちらの部分で説明をいたしますと、基本目標1には、3つの基本施策と、それにぶら下がる各施策が記載をしております。

こちらの部分、今回の改訂につきましては、これらの施策に関し、現時点で DX 全体方針に基づき実施している、あるいは想定されている具体的な取組を、その下に箱囲みという形で記載をさせていただいております。

こちらの 18 分の 6 ページのところでございますが、改訂後の部分、DX の推進における具体の取組ということで、スマート農業の推進、ドローン等の活用、以下こういった形で具体の取組を実施しているか、あるいは今後想定しているという形での説明とさせていただいております。

ただ、この各施策の推進に当たりましては、DX に限らず様々な手法を用いて、効果的・効率的に取り組むのが基本的な考え方でございますが、今回は特にも、デジタル技術の活用に着目した総合戦略の改訂ということになりますために、基本目標ごとに示している施策において、DX 推進に資する具体的な取組を抜粋して記載をしているところでございます。

以降、基本目標 2 から 4 まで同様の見直しを行っております。

詳細の説明については省略いたしますけれども、今回のメインの改訂内容についてはこういった形でさせていただいたというものでございます。

また、併せて KPI につきまして、全般的にチェックをさせていただきました。本来一致すべき総合計画に掲げる KPI との食い違いなど修正を要する点もございましたので、再チェックを行った上で、必要な修正を加えております。

なお、KPI については、本文中では現状値と目標値のみの記載となっておりますことから、資料 7 といたしまして、計画策定以降の、総合戦略計画策定以降の KPI の推移を別添でお示しをしております。こちらは後ほどご確認をいただきたいと思っております。

また、資料 8 でございますが、これが先ほど来説明しております、奥州市の DX 全体方針となります。こちらの奥州市の DX 推進の取組につきましては、後ほど例示を交えた補足説明をさせていただきたいと思っております。

新旧対照表の方は 18 分の 10 ページ中段の部分になりますけれども、こちらをご覧くださいと思います。

ここからは、総合戦略に奥州市未来羅針盤図及び羅針盤図に掲げるプロジェクトを位置づける改訂といたします。資料 5 の改訂案本文では、18 ページから 24 ページまでとなります。

冒頭申し上げましたとおり、未来羅針盤図については、人口減少対策として取り組む市が目指すまちの開発デザインとして策定、公表しているものでございますが、今回の総合戦略の改訂に当たりまして、3つの全市共通プロジェクトと、5つのエリアプロジェクトを計画に明示することとして、その事業概要や主な取組内容を記載しております。

未来羅針盤プロジェクトの推進に当たりましては、官民連携による取組を前提とし

ておりまして、今後プロジェクト推進に当たりましては、時期を捉えて参画いただく事業者の募集あるいは選定等を行い、連携して取組を進めることとなります。

一般的に行政が策定する計画におきましては、計画期間を定めて事業計画を立て、事業の成果を測る指標なども明らかにするところではございますけれども、未来羅針盤プロジェクトについては、今後事業者等の役割分担や事業手法などについて協議調整することとなっておりますため、現時点で行政が一方的に事業計画を策定したり、指標を設定することは行っておりません。

プロジェクトを進める上で、市が予算措置して行う道路整備事業などについては、通常の行政評価の枠組みで指標を設定させていただき、評価をする流れと考えておりますので、一般的な行政計画と今回の総合戦略への記載は、表し方が異なる点にご留意をいただければというふうに思います。

なお、未来羅針盤プロジェクトの進捗につきましては、今後も機会を捉えて、本審議会で報告をさせていただく予定ですので、ご承知おき願いたいと思います。

私からの説明は以上です。

▶ 浦川総務部長

総務部長の浦川でございます。

続きまして、私の方から、奥州市の DX の取組について説明をさせていただきます。

資料の方画面の方と、それから同じものがお手元に行っているかと思えます。そちらをご覧ください。

まずはじめに、DX、DX ってよく言うけども、デジタルトランスフォーメーションというのは実際にどんなもんなの、何のことなのという部分について、動画を見ていただきたいと思いますので、まずは画面の方をご覧ください。

－動画視聴－

簡単な動画ではございましたが、DX というのは、デジタル技術を使って今までのやり方であったり、働き方を変えたり、それからこれまでにない利便性を提供するんだよという内容でございました。

そのためには、きちんとした計画があってこそその DX だよという話でございました。

では、奥州市ではどんな状況にあるのという部分について説明をしたいと思います。あとページの方 3 ページになりますが、今年の DX の全体方針というのを定めておりまして、その中でも三つの柱を作っております。

一つとしては、地域社会の DX の推進、もう一つは行政の DX 推進、それからデジタル社会の基盤づくり、この三つが柱になっております。

それぞれの内容としましては、4 ページになりますが、地域社会の DX 推進としては、下に括弧してあるように、保育所の ICT システムであったり、観光デジタルマップであったり、それから遠隔診療車、AI オンデマンドであったり、それから行政の DX

推進であれば、例えば各種手続をオンラインで終了するようにする、それからオンラインで面談窓口を作る、それから生成 AI を導入したり、ロボットによる業務の自動化を図るといったような取組がございます。

それから、デジタル社会の基盤づくりの中では、高齢者のデジタルサポーターの育成であったり、それから公衆無線 LAN の整備であったり、ぽちっと奥州での情報発信など、これらを挙げております。

次のページをご覧ください。具体的に、今年度、令和 6 年度に実施するものの一例でございますが、一つは先ほどもあった保育所の ICT システム、これは幼保施設と家庭をアプリでつなげるような動きというのを今やっております。

次のページになります。2 番となりますが、前沢の方で導入予定であります AI のオンデマンド、それから 3 番としては、デジタルマップを提供する観光 DX 推進事業、それから 4 番としては、誰でもスマホを使えるようにということで、デジタルデバイス対策、これらに取り組んでいるということ、これらを予定しているということでございます。

今回の計画の見直しに当たりましては、こういった全体方針で、今後 5 年間に取組を始めたいと思っているもので、もちろん、まだ形になっていないものもあるのですが、それらを抜粋しまして、DX 全体方針に掲げる具体的な取組ということで、箱囲みで記載をさせていただいているということです。先ほどの計画の下にはこのデジタル DX の全体方針があるというようなことをぜひ理解をいただければよろしいかなと思っております。

説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

ただいま、膨大な資料を使いながら、簡潔明瞭に説明されたというふうに伺っておりますけれども、もっと何か難しいところに入り込んだという気がする人もいるのかなというふうに思います。

いずれ世の中全体がこの DX でこれからもどんどん深掘りされるというふうに見て取れますので、少しでも我々も、前進をしながら、これに追いついていければなというふうに思っています。

それでは皆さんの方からご質問とか、ご意見を伺いたいというふうに思います。

はい、どうぞ。

▶ 吉田委員（1号委員：前沢地域会議）

先日うちの主人が印鑑証明を取りたくて、マイナンバーカードで取ろうと思ったら取れなかったんです。それで、以前住基カードというのがあって、役場に電話したら住基カードの方で役所に持ってきて取ってくださいとかって言われたんですけども、私達にすれば、もうそのマイナンバーカードに全部入っているのかなという、そういう思

い込みがあったものですから、あれって気持ちがあって、その辺どうなのかなと聞いてみたかったです。お願いします。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

それでは事務局からお願いします。

▶ 及川市民環境部長

はい、市民環境部の及川でございます。

住基カードで印鑑登録を取った方についてはマイナンバーカードを作っても、移行されないです。

それぞれマイナンバーカードというのは、基本4情報だけですので、それに何のサービスをくっつけていくかというところが必要になりますので、保険証もそうですし、そういった部分についてはご自分で判断されて、やっていくと。

マイナンバーカードができる前に住基カードを奥州市では導入しましたので、そこで作ってしまった人については、移行作業が必要になってくるということになりますので、ご理解をいただければというふうに思います。

以上です。

▶ 吉田委員（1号委員：前沢地域会議）

そういうことは、例えば広報とかで見落とししたかもしれないけれども、周知はされていると思っていいのでしょうか。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

いかがでしょうか。

▶ 及川市民環境部長

住基カードの枚数が今非常に少なくなってきました。マイナンバーカードに全部移行してきたので、数百枚程度です。奥州市で住基カードを持ってらっしゃる方が。

サービスも来年で終了いたしますので、そういった部分については、今後アナウンスはもう1回させていただきたいというふうに思います。

以上です。

▶ 吉田委員（1号委員：前沢地域会議）

もしかすると、もうマイナンバーカードを持った時点で住基カードを捨ててしまう可能性があったなと思って、持っていたからよかったけど、これがもしうっかりしてしまったらえらいことだなと思って、やっぱりそういう広報はちゃんとしていただけると、少ないにしても持っている人がいるわけだから、ちゃんとしてほしいなと思いました。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

はい、過渡期の対応ということでもありますから、丁寧さが求められるかなというふうには思います。そういう流れにもなっているということでございます。

その他ございますでしょうか。はい、どうぞ。

▶ 吉村委員（3号委員：岩手大学）

吉村です。

一つ目が、細かいことなんですけど、資料5の3ページ。これまでの取組の成果ということなんですけど、これ、改訂する際の表現で「これまでの」という表現でいいと思うんですけど、今回かなり年数経っての改訂なので、第1期しか書いてないというのは違和感があるので、ここは「第1期の」という形で明記されると、内容としてはすっきりするかななんて思いました。

あわせて、要望としては、せっかく今日、今回第2期の進捗状況のKPIの数値をまとめられていらしゃったので、それは総合計画の改訂版の参考資料にぜひつけていただけるといいなというふうに感じました。

二つ目が、少し大きくなってしまいかもしれないんですけど、資料5の2ページの辺りに書かれていることですが、今回の改訂をすることの目的は、DX推進計画があったことと、羅針盤図があったことなんだと思っています。

他方で、DX推進に関する議論に関しては、4番基本的施策の中でもかなり記載があるんだと思うんですけど、一方で、ここの中では未来羅針盤図についてはあまりほとんど記載がなくて、5で未来羅針盤図とはこういうものです、という記載しかないというのが、私としては、5番がすごく居座りが悪い、どういう、この総合計画の中での位置づけなんだろうというのが、私の中では分かりにくいなというふうに印象を持ちました。

なので、もうどちらかなんだと思うんですが、その総合計画の中で、先ほど事務局の方がおっしゃったとおり、数値を決めるのが難しいんだということであるんだとすれば、3番のところ、新たな視点のところを(3)なんだと思うんですけど、新たな視点のところDXも進めるし、さらには羅針盤図についても考慮して考えていくんだけど、羅針盤図については官民連携、民間との連携の中で特定の目的を設定するわけではないので、今回は設定していませんということを明確におっしゃっていた方が、計画としては素晴らしいんじゃないかなんていうことを感じました。

その場合は、5番に書かれている内容はむしろ、例えば参考資料にするですとか、あるいは前の方に持って行って、こういうことを考えているんですというビジョンを見せられると良いんじゃないかなというのが思ったことです。

最後は、DXに関して、事例を挙げられたということも、素晴らしいことなんだと思うんですけど、一方で結局、この総合計画の改訂をしたことで、DXに関して目標値は何なんだろうということが明示されてなくて、いろんな取組事例としてはこんなことを考えていますよ、ということが列記されていて、何を到達目標とされているのかということが明示されていない状況になっているのかと思います。

DXに関してKPIを設定するのは、なかなか難しい部分もあるかと思うんですけれ

ども、例えばですけど、導入事例が１件あるとか２件あるというような、令和８年までには作るというような目標設定をするというのは、それなりに思いを込めてやられるのは非常に意義があることだと思いますので、例示ももちろん大切かと思うんですが、KPIとしても何か、せっかくでするので、改訂されているわけですので、一つか二つ入れられる方が良くはないかなと、進捗管理としては良いのではないかなと思います。すみません、長くなりました。

以上です。

▶ 遠藤会長（１号委員：水沢地域会議）

はい、ありがとうございます。

数点あったというふうに記憶しましたが、事務局の方から、項目を分けながら回答いただければいいかなと思います。よろしくお願いします。

▶ 阿部政策企画課長

はい。それでは、大きくは３点かなというふうには受け取ったのですが、まず１点目でございます。

これまでの部分ということで、取組の３ページのところ、成果と課題ということで記載をさせていただいたのが、第１期のということで今回修正はかけておりませんので、表記としてはそのとおりだなというふうに思います。ここは成案に向けて、表現は一応調整をさせていただきたいというふうに思いますし、それから、DXの推進に関するということで、この未来羅針盤図の大きい部分につきましては、なかなか事務局の中でも、どの辺にここを位置づけるかといったところについては議論があったところなんですけれども、今回このような形で案を作らせていただいて、新たな視点のところ今回DXの部分を足しましたけれども、そこに未来羅針盤図というの、確かにそういう考え方もできるかなというふうには思いましたので、もう少し時間をかけて、こういった形の位置づけで表すのがいいのかというところは、検討させていただければというふうに思います。

それから、DXのKPIをどのようにかできないかなというところ、事務局内でも非常に時間をかけて議論をさせていただきました。ただ説明の中でも申し上げたんですけれども、DXというのは手段であって、これが目的化してしまっはいけないというところで、今の総合戦略のKPIと同列に書けるものがあるかどうかといったところが心配になってきます。

それで、それぞれの取組に関しましては、来月改めて皆様にはお示しするんですけれども、毎年実施しております行政評価、これの中で指標を設定させていただいて取り組んでおりますので、当然その事業ごとに指標は設定しております。

ということで、DXの取組を今後、具体的な取組になってくればそういった事業の中に位置付けることができるのではないかなということで、そちらの方での指標の管理

といいますか、進捗管理というものではどうかなというのが今回の案を策定した際の事務局の考え方でございました。もうそこによらない部分があるというのであればなんですけれども、一応まずそういった形で整理、考え方としては整理をして進めさせていただきたいなというふうに思っているところでございます。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

いかがでしょうか。

▶ 吉村委員（3号委員：岩手大学）

おっしゃることはもちろんそのとおりで、DX推進というのがあくまで手段だというのはもちろんなんですけど、KPIで示されているものも、あくまで手段であるものというのは結構あるんですね。

同じようにあくまで手段であって、これを数値だけが意味があるものではないものというものはあるんだと思うんです。

ですので、DXに関しても何か目標としてこれがあるんだということが明確に分かるものが何か示されていれば、私としては安心なんですけど、今のところだと例示しかないという状況なのではないかという印象があるので、少し何か書き方を工夫させていただけると、成果としてこういうことを目指されているんだなということが分かるので、ご検討いただければと思います。あとその他に関してはありません。

以上です。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

それでは今、ご質問者の方からありましたように、今後事務局の方でご検討していただければというふうに思いますので、よろしくお願いします。

その他ございませんか。

はい、どうぞ。

▶ 若生委員（2号委員：奥州めぐみネット）

若生です。

14ページのところなんですけれども、今回指標の見直しの機会でもないのがこれは今思っていることを一言お話ししたいと思うんですが、本格的な移住に至る前に、まず奥州市に来て、農業を体験してみたいとか、仮住まいをしながら趣旨の住み心地を確認したいというときにちょうど良い住居がないというのが困ったという話を結構たくさん聞くんですね。

ここで新たに予算をどんとつけて、空き家をリノベーションしてくださいという意見ではなくて、その過程、その途中も一緒にみんなでリノベーションのスキルを身に付けながら、ここの空き家をそういうふうに使えるように、みんなで作り変えてみないかというふうなことを、いろんな地域で手がけてみて、そういうことができるような人たちが増えてくると、自分たちの住んでいる地域にも、ここの家あったな、ここどうかな

というところが見えてくるし、実際に観光ではなくて何日か住んでみながら、季節を通して働いてみて、居心地を確認するというのが本当に移住につながるのではないかなと思いますので、今回の話し合いのテーマからは逸れるんですが、そういう形での人づくりも兼ねながら、定着して、仮住まいできるような場所を意図して増やしていくということが、いろんなことに効果がはっきりしてくるのではないかなと思うんですが、その辺のことについては、市の方でも何か取組をされていることとかは、現在あるんでしょうか。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

はい、事務局の方からお願いをいたします。

▶ 二階堂政策企画部長

はい、ご意見ありがとうございます。

よく地域づくりの中でその地域の方と、それから移住されておられる方一緒になってという部分は、私も拝見してございますし、あれですかね、米里の大正時代のあれもそういう類になりますかね。

▶ 若生委員（2号委員：奥州めぐみネット）

あれは片付けの部分いろんな人たちが協力してというのもありますけれども、今いろんな地域に出て、リノベーションのスキルを身につけて奥州市に戻ってきた若い人たち結構いらっしゃいますよね。

だからそういう人たちとやってみたいんだけど、という人たちが一緒になって、何か空き家を住みやすくしていくという体験を重ねていくと、それが増えていく可能性と、やっぱりそういうことを一緒にできるこの地域は面白いかもねと思ってくれる人が増えるんじゃないかなという期待と両方ありまして、他の市町村ではそういう取組、リノベーションスクールみたいな感じをしながら、その体験料も払いつつ、でもそのスキルが身に付くから参加したいという人がたくさんいたりするような状況を聞いたりもしているので、当市でもそのような動きが出てくると、またいろんな動きが繋がってくるんじゃないかなと思っての意見でした。

▶ 二階堂政策企画部長

はい、ありがとうございます。

近隣で言うと、まちづくりの観点では花巻がリノベーションを一生懸命勉強してらっしゃって、動きが活発だというふうに認識しております。

奥州市の方で、お試し移住というか、そういう形で物件提供するというのは、積極的にはまだ行ってないところでございまして、奥州市内でそれが試せると言えば、県の住宅で、安価でWi-Fiも付いてというところの選択には今になってしまうんですけど、それらお試し移住した方が、その後どうするかというところについては、奥州市の移住支援員、今2人おりまして、一生懸命相談に乗っております。

その移住支援員も、外から来た方、あるいは地域おこし協力隊の方もいらっしゃって、実はご本人、今相談やっている人間が、まさにリノベーションして、住もうというふうな具体的なプランを持っているところでございます。

今のようなお話も参考にして、その中で移住定住部門、組織的にもっと強化すべきだというふうに私は考えているんですけども、その中で、今のようなことを参考に、何ができるか考えていきたいというふうに思います。

▶ 遠藤会長（１号委員：水沢地域会議）

よろしいでしょうか。

その他、はいどうぞ。

▶ 佐藤委員（４号委員：公募）

公募の佐藤です。

資料５の１７ページ、自主防災組織の件なんですけども、今９５．１％現状ってなっています。これ町内会単位なんでしょうか。

▶ 遠藤会長（１号委員：水沢地域会議）

はい、お願いします。

▶ 及川市民環境部長

町内会単位のところもありますし、振興会の単位のところもでございます。

まだ組織できていないところは、町場とか、そういったところで住民の方が本当に少なくなったりとかして、自主防災組織まで組織できないという状況があるので、単位も含めて、少しこちらでも考えていかなければならないところかなということで、現状は現状維持が続いているというのが実情のところでございます。

はい、以上です。

▶ 佐藤委員（４号委員：公募）

例えば町内会単位で、この自主防災組織を作るのは簡単なんですけれども、実際に具体的に何をやればいいのか、何が起きたときにどういう動きをすればいいのかみたいなものは、具体的なその指標みたいなのは、あるんでしょうか。

▶ 遠藤会長（１号委員：水沢地域会議）

はい、事務局どうぞ。

▶ 及川市民環境部長

基本的には、避難訓練をしていただくとか、防災の用具を揃えていただいたりとかというのは、実際にもうやってらっしゃる地域がたくさんあります。

そういった実際に、有事の際にどう動くのかということを事前に訓練をしておいて、例えば大雨警報が出たらここに逃げようねとか、公助としては一時収容避難所ということで地区センターを中心に避難所開設しますが、そこで全員の方を受け入れるわけではないので、自主防災組織単位で、例えば避難する場所を決めておくとか、そういった

活動が日常の活動になってくるかなというふうに思います。

以上です。

▶ 遠藤会長（１号委員：水沢地域会議）

はい、どうぞ。

▶ 佐藤委員（４号委員：公募）

すいません。今結局、この防災組織を作っている役員になっている、例えば町内会の役員さんというのは、大体 50 代から 60 代の方なんですけども、そうすると仕事をしていらっしゃるんですね。

そうすると、本当に平日の日中に何か起きたときに、その町内会にあるからといって、何ができるんだろうなというのがあるというのを、この間町内会で問題になりまして、実際避難訓練も町内会ごとに行うという場合にいろんな例えば消防署とか、市の方の何か援助とか、そういうのを支援とかというのは得られるものですか。

▶ 遠藤会長（１号委員：水沢地域会議）

はい、いかがでしょうか。

▶ 及川市民環境部長

何の支援が必要か、人を派遣するものですか。

▶ 佐藤委員（４号委員：公募）

人の派遣です。

▶ 及川市民環境部長

はい、基本的に、奥州市の体制ですと、一時収容避難所のところに職員を配置するのが、今のところ精一杯という状況なので、そういう職員がいてサポートしてくれるというのであれば、一時収容避難所に来ていただくというのが、基本になると思います。

ですから地区センターとかそういうところに来ていただいて、あの避難所開設してあるところに来ていただく。で、その他に地域の中で避難場所みたいな形で任意で決められている場合については、そこから一時収容避難所に対して、ここに何人避難していますよという連絡をいただければ、資材とか、あとは、人については職員をそこにすぐ送るということはできませんので、どこに避難をしているということをお知らせいただければ、支援についてはできると思います。

▶ 佐藤委員（４号委員：公募）

防災訓練をやる場合は。

▶ 及川市民環境部長

防災訓練をやる場合ですか。

防災訓練であれば、お知らせいただければ、担当職員とかが行って、指導とか、そういったものについてはできると思います。

▶ 遠藤会長（１号委員：水沢地域会議）

私達の地区も、組織はおっしゃるようにできてはいるんですけども、具体的な活動となると、なかなか実施し難いというのが実情だというふうに思います。

あともう一つ地域性がありまして、やはり洪水の大被害を受けている地域であるとか、ここは確実に水かさが上がって、水没地域になるというところは、日常的な危機感というものが当然植え付けられていますから、活発にやられているんですけども、まだ全然被害を受けたことがないとか、要するに町場なんかで、これが内水面の水没が非常に危惧されるんですけども、そういうところはなかなか動きが鈍いというふうに私も考えて、その指導をどうするのかというのが地域課題にもなっています。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

よろしいでしょうか。

その他ございましたら。はいどうぞ。

▶ 高橋委員（3号委員：岩手県南広域振興局）

岩手県南広域振興局の高橋と申します。

資料5の13ページのところで、指標の関係、KPIの関係で1点確認というか、意見させていただきたいと思っているんですけども、不妊治療の助成件数の部分なんです。令和8年度まで100件というふうに入数で数字が入っているんですけども、これを見ると、例えば不妊治療が必要な人が増えればいいみたいな事業に見えなくもないというところがありまして、本来ここで言いたいのは、不妊治療が必要な人が、100%そういう助成を受けられるというようなことが目標であるべきじゃないかなと思ったりもします。もしそういうことであれば、件数を単に増やすということではなくて、例えば相談のあった件数のうち、助成を受けた方が何%いるのかとか、そういったような測り方の指標でもいいんじゃないかなと思いますので、検討することができるのであれば、ご検討いただければと思います。

以上です。

▶ 遠藤会長（1号委員：水沢地域会議）

はい。事務局の方でもし答える部分ございましたらお願いします。

▶ 高野健康こども部長

はい。健康こども部でございます。

今のご意見、参考にして検討させていただきたいと思います。

件数としているのは、不妊治療をなかなかオープンにして受けたという人が数少ないというのがありまして、結果的には助成事業があるのですが、なかなか乗ってくれないというような人も中にいるということで、そういう人たちをどんどん表に出してと言ったら失礼な言い方ですけども、制度を利用してもらうようにしていただきたいという思いがあって、一応件数を増やすということでやっております。

今100件という目標にはしていますけど、保険適用にも今なっている関係で、さら

に件数は増えていまして、令和５年度が１２０件を超えているような感じです。

これがあと、実際出産に結びついた数というのを私どもは押さえておりまして、結果とすると少子人口対策に対しては、実はすごく目に見えて効果のあるものでもあったりするものですから、その数をできるだけ増やしていけば、結果にもつながってくるのかなって思いもあってやっていたという経緯はあるということでございます。

今のご意見はそのとおりだと思いますので、今後検討させていただきたいというふうに思います。

以上です。

▶ 遠藤会長（１号委員：水沢地域会議）

よろしいでしょうか。

▶ 高橋委員（３号委員：岩手県南広域振興局）

はい。施策の方でお考えいただければ、KPI とかは別かなと思いますので、ご検討いただければと思います。

ありがとうございます。

▶ 遠藤会長（１号委員：水沢地域会議）

時間も迫ってきたようでありますけども、あとお一人ぐらいはいかがでしょうか。

よろしいですか。

はい。それではこれもちまして、この項については終了させていただきます。大変ありがとうございました。

多くの皆さんの方からご意見やご質問いただきましたので、これを元に、事務局でもう一度深掘りしていけるというふうに思いますので、次回にその辺をご期待いただければと思います。どうもありがとうございました。

終わります。

6 その他

▶ 二階堂政策企画部長

遠藤会長、議事進行ありがとうございました。

事務局からは本日用意いたしました報告事項等は以上でございますが、その他として皆さんからご質問、ご意見等がございましたらお願いします。

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

事務局から何かありますか。いいですか。

はい、吉田さんどうぞ。

▶ 吉田委員（１号委員：前沢地域会議）

すみません、市長が先ほど有償ボランティアというのを言いましたけれども、有償となると予算が発生すると思うんですが、そういう予算ってちゃんと取ってあるのでしょうか。

▶ 倉成市長

僕が言っている有償ボランティアというのは、その各拠点が法人化して、そのの稼ぎの中で出すという意味です。

▶ 吉田委員（1号委員：前沢地域会議）

そういうことか。

7 閉会

はい、ありがとうございます。

今、必要なご意見、様々頂戴いたしましたので、新しい改訂版の総合戦略、この辺についても見直すべきところは見直して進めたいというふうに思います。

それでは以上をもちまして、令和6年度第1回奥州市総合計画審議会を閉会したいと思います。

大変ありがとうございました。